

2026年5月14日

昭和産業株式会社

2026年3月期 決算の発表について

昭和産業株式会社（代表取締役社長執行役員：塚越英行）の2026年3月期連結決算は、売上高 335,413 百万円、営業利益 11,941 百万円、経常利益 14,458 百万円となりました。2027年3月期連結業績予想については、売上高 350,000 百万円、営業利益 12,000 百万円、経常利益 14,000 百万円を見込んでおります。

【2026年3月期連結決算】

当連結会計年度における我が国経済は、雇用・所得環境の改善等により、緩やかな回復基調となっております。しかしながら、物価上昇による消費者の節約志向の一層の高まりや、物流コスト・人件費の増加、米国の関税政策の動向による世界経済への影響に加え、中東情勢の緊迫化にともなう原油価格上昇を背景とした原材料価格の高騰等もあり、インバウンド消費等も含めて依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社は創立 90 周年を迎える 2025 年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向け、3rd Stage「中期経営計画 23-25」を 2023 年 4 月にスタートし、基本コンセプト『SHOWA の“SHIN-KA”宣言～90 年、そしてその先へ～』を掲げ、5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③環境負荷の低減」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策を推進してまいりました。

当連結会計年度では、「①基盤事業の強化」において、グループ一体となった生産拠点の運用最適化を進めたことで収益力強化を実現しました。糖質カテゴリでは、当社、当社連結子会社である敷島スターチ株式会社、サンエイ糖化株式会社の 3 工場体制による安定供給の仕組みを確立し、グループ全体での収益の安定化に大きく貢献しました。「②事業領域の拡大」において、当社連結子会社である Showa Sangyo International Vietnam Co., Ltd. の新工場が竣工し、プレミックスの製造を開始しました。また、中華まんじゅう、中華惣菜等の製造販売を主な事業とする東葛食品株式会社の全株式を取得し、完全子会社化しました。「③環境負荷の低減」では、「昭和産業グループ環境目標」CO2 排出量 46%以上削減（グループ全体 2030 年度目標、対 2013 年度）、食品ロス 30%以上削減（昭和産業および食品ロス発生量が 100 t/年以上のグループ会社 6 社 2025 年度目標、対 2018 年度）、水使用量原単位 12 %以上削減（グループ全体 2030 年度目標、対 2019 年度）の実現を目指してまいりました。そして、2026 年 2 月に脱炭素・環境負荷低減に向けた新グループ環境目標を策定しました。脱炭素を経営の重要課題と捉え、2050 年度目標の達成に加え、食品ロス・水使用量削減を含む多角的な環境負荷低減を同時並行で推進してまいります。

当連結会計年度の経営成績は、連結売上高が 335,413 百万円と前年同期に比べ 988 百万円（0.3%）の増収となりました。営業利益は 11,941 百万円と前年同期に比べ 815 百万円（7.3%）の増益、経常利益は 14,458 百万円と前年同期に比べ 867 百万円（6.4%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は 10,611 百万円と前年同期に比べ 988 百万円（8.5%）の減益となりました。

【2027年3月期連結業績予想】

2027年3月期の業績は、連結売上高 350,000 百万円、連結営業利益 12,000 百万円、連結経常利益 14,000 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 9,500 百万円を見込んでおります。

以 上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 企画部コーポレート・コミュニケーション室

TEL : 03-3257-2042 担当 : 関口